

JANOG 45 Sapporo

# ネットワーク解説書 の作り方

## - 著者と出版社の攻防 -

# 目次

- ・自己紹介
- ・著者の立場から（小川晃通）
- ・出版社の立場から（鹿野桂一郎）
- ・会場との議論

# 自己紹介（小川晃通）

- これまで8冊の本に関わっています
  - 「マスタリングTCP/IP RTP編」（監訳） オーム社
  - 「Linuxネットワークプログラミング」ソフトバンククリエイティブ
  - 「インターネットのカタチ」（共著） オーム社
  - 「マスタリングTCP/IP Openflow編」（共著） オーム社
  - 「アカマイ知られざるインターネットの巨人」 KADOKAWA
  - 「ポートとソケットがわかればインターネットがわかる」技術評論社
  - 「プロフェッショナルIPv6」 ラムダノート
  - 「徹底解説v6プラス」 ラムダノート

# 企画が開始するまで（著者の視点）

- ・出版社から声がかかる
  - ・ある日、突然連絡が来る
  - ・情報発信していることがポイント
- ・出版社に提案する
  - ・「あ、これについて書こう！」→出版社に提案する

# 出版社から声がかかる場合

- 私の場合

- イベント登壇の記事を見た編集者（鹿野さん）からの連絡
  - 54<sup>th</sup> IETF 横浜でのRTP関連の発表
- Webサイトを見た編集者から
- 他の人に依頼しようとしていて断られた編集者から

# **著者発案の提案企画（著者視点）**

- 著者として出版社に提案
- 編集者と出版社内での企画書に関連する相談
- 企画がOKになる
- 執筆開始
- 脱稿
- 販売開始
- 宣伝

# 編集者との攻防

- 初稿脱稿までの攻防
  - 「進捗はいかがでしょうか？」アタックの有無
- 初稿脱稿後に内容に関連する攻防
  - 編集者によっては、あまり発生しない
  - 鹿野さんは、内容を含めてグイグイ来るタイプなので攻防多め
- どういう攻防があるのか？

# 初稿脱稿までの苦悩

- 最初に、目次案を考える
  - 何を伝えたいか？
  - 書いている途中に変わることも多い
- 調べる、調べる、調べる、そして、調べる
  - とにかく調べ続ける
- 抽象化、構造化
  - 構成要素の整理
  - 歴史的背景などによる「流れ」の把握
  - 「わかりやすさ」と誤解のトレードオフに四苦八苦
- 自分自身の思い込みが非常に怖い
  - 「当たり前」と思い込んでいる内容に間違いが含まれることが多い
  - 自分の記憶ほど信用できないものはない

# 本の宣伝

- ・著者が行い続ける必要あり
- ・出版社による宣伝は、限定期
  - ・発売直後には、出版社による宣伝もあり
- ・自分で宣伝ができる著者が求められがち

# ここで鹿野さんにバトンタッチ

吉澤 勝也  
吉澤 勝也  
吉澤 勝也  
吉澤 勝也

# 出版社から出すメリット

- ・最近は、著者だけで同人誌的に出すことも可能
  - ・同人的に出す方が利益は大きい場合もある
- ・出版社から書籍を出すメリットもある
  - ・完成度の違い
  - ・表紙や図の品質
  - ・内容チェック
  - ・誤字脱字の撲滅活動
  - ・書店の棚（場合による）
  - ・宣伝（場合による）

# 印税の話

- ・技術書で生活するのは困難
- ・定価2000円、3000部、印税率10%の場合
  - $2000 \times 3000 \times 0.1 \Rightarrow 60\text{万円}$
  - 執筆に1年かけたら、、、
    - 執筆に数年かけたら、、、
  - 「もう、本は書かないで」と言われてしまった話

# 今後、誰が情報をまとめの？

- ・著者にメリットは、多いわけではない
  - ・趣味の延長？
- ・「名刺代わり」と言われるけれど、
  - ・本当？